

区民まつりで [まちづくり工房] をPRしました!

⇒秋晴れの10月23日(土)に保土ヶ谷区民祭りで、まちづくり工房のPRブースを開設しました。公称2万人来場も満更ではない大賑わいの中、まちづくり工房ブースでは以下のメニューを用意しました。



- ・辻本さんの交通アンケート
- ・ほどがや名物販売
- ・新桜ヶ丘音頭CD発売
- ・市沢・仏向の谷戸に親しむ会の報告書と竹細工
- ・ほどがや産ジャガイモを使った谷戸汁販売
- ・坂道愛称募集

「ブースの盛況ぶりには感激しました。保土ヶ谷名物は早々に売りきれましたし、活動団体のPRも順調でした。又1度に二種類のアンケートをお願いしたにも拘らず、沢山の協力を頂き、用意した粗品が足りなくなるほどでした。皆様お疲れ様でした。」(工房メンバーの中村さん談)

11/23(祝)と12/15(水)は「連絡会議」改め「全体会議」です!

⇒10/25(月)の作戦会議でも話題になりました、11月からの連絡会議の名称がコアメンバーだけの会議に見えるので、名称をメンバー全員が出席する意味がわかるように「全体会議」に変更しました。

⇒11/23(祝)は、後期プロジェクトのチーム毎の構想を報告・調整をします。

⇒12/15(水)は、少し趣向を変えて18:30からの全体会議を予定しています。皆様、奮ってご参加下さいませ。

WEB上のまちづくり工房へは...
まちづくり工房ホームページのURL
<http://www.y-p-c.co.jp/hodogaya/index.htm>

まちづくり工房へのご意見・ご感想・お問い合わせ等はeメールでも受付。
e-mailアドレス: hodogaya-machikoubou-info@yahooogroups.jp

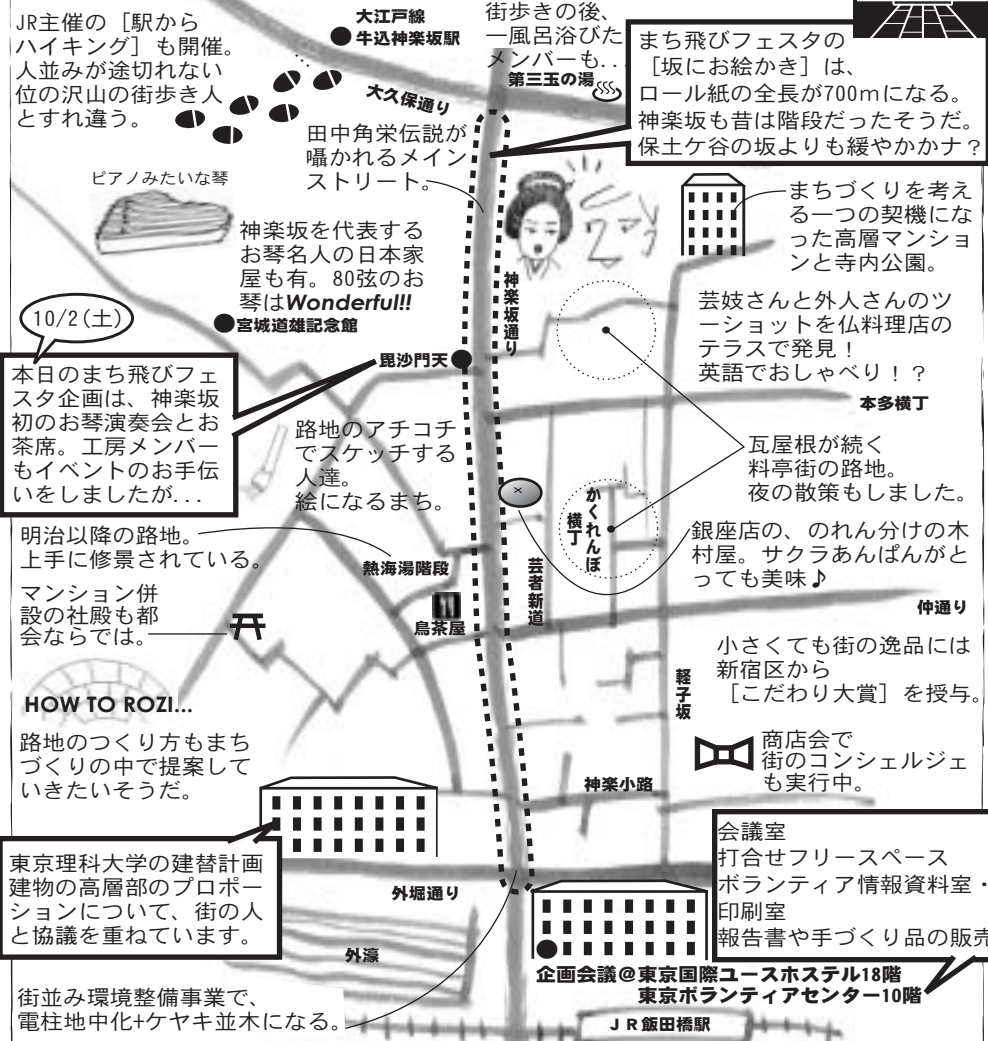
編集後記
区民まつりのまちづくり工房のブースでちびっ子達に一番人気だったのが、市沢・仏向の谷戸に親しむ会製作の「キコギコ竹風車(名前がわからぬので勝手にそう呼んでいきます)」。キコギコの仕方で風車の回転が変わる様には、大人でもソイヤはまってしまいう竹細工です。

左にboon~
右にもboon~
また、高校生によるちびっ科学校教室も縁日のような賑わいでした。保土ヶ谷四百倶楽部作成の宿場再現模型も圧巻。当時のお店の表情まで忠実に再現。これを小学生が作ったと聞いて二度ビックリ。大人も子供も分け隔てなく楽しめた一日でした。IMK

ほどがや協働 まちづくり工房通信

(仮名) 第4号 編集・発行/ほどがや協働まちづくり工房 〒240-0001横浜市保土ヶ谷区川辺町2-9保土ヶ谷区役所 区政推進課 企画調整係内 TEL.045-334-6227 FAX.045-333-7945

【人が街をつくり、街が人を引き寄せる】
神楽坂のまちづくりにそんな姿を見ました!

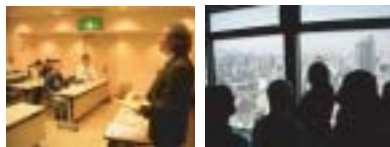


※ここには、第4回講座で工房メンバーが神楽坂の街歩き中に見聞きした中で、特に印象に残っていることをそのまま記しています。

第4回の出席率 16人/34人中≒47%
宿題(企画書)の提出数
20本(メッパ-) + 12本(サキ-タ-) = 32本

当日はこんなことをしました！

■飯田橋のユースホステル会議室で顔合わせ
神楽坂地区まちづくりの会の坂本さん、平松さんに、神楽坂のまちのことやまち歩きコースの紹介をしてもらいました。



この日は天気がよく、たくさんの方がスケッチしました！

■坂本さん、平松さんの案内でまち歩き
路地空間や問題となったマンション、まちのコンシェルジュ(案内人)のことなどの話をしながら二つのコースに分かれて歩きました。

■作戦会議 (@ユースホステル)

後期プロジェクトの進め方について検討し、今期に取組むカテゴリーを仮決定しました。



作戦会議



お琴演奏会

■お琴の演奏や、野点でのお茶を見学しました！ (@毘沙門天)

作戦会議の一方で、神楽坂にゆかりのある宮城道雄にちなんだお琴の演奏会や、野点を楽しみました。



野点

■神楽坂の方々とお茶会をしました (@毘沙門天)

神楽坂まちづくりの会、まち飛びフェスタの実行委員会、粋なまちづくり倶楽部の方々と交え、神楽坂でのまちづくりにおいて、どのように情報を共有しているのか、どのように連絡を取っているのか、どのように人の輪を広げていったのか、などについて、車座になって意見交換しました。



車座でトーク

【知ってるようで、知らない近所】

第3回 横浜国大編

音楽を通じた地域と大学とのつながり 一後編

「国大(横浜国立大学)って近所だけよくわからない。」こんなコメントから始まったこのエッセイ。今回は、音楽を通じた大学と地域のコラボレーション後編。もちろん学生の視点から取材、発信していきます。(横浜国立大 戸田貴也)

大学生の管弦楽団の出張演奏会当日

「おはようございまーす。」と元気な声が体育館内に響き渡ります。何人かのオーケストラ団員も思わず微笑んでしまうほどです。9月15日、旭区東希望が丘小学校に管弦楽団が訪問して演奏会を行った際的一幕です。これは、授業の一環として、1、2時間目の約1時間を使って行われました。当日、低学年プログラムではCMでおなじみのハンガリー5番、楽器紹介、ドレミの歌、子供たちが指揮の体験をするコーナーでは威風堂々、おもちゃのシンフォニー、さんば、校歌、アンコールにラデツキー行進曲、そして退場曲として森の熊さんが演奏されました。司会は学生(男女それぞれ1名ずつ)が行い、流行を考慮してアニメの「かいけつゾロリ」の格好を真似たキャラクターも登場しました。高学年プログラムでは生徒が楽器を体験できる「楽器体験のコーナー」も設けられました。このコーナーは例年通り大盛況で、演奏会終了後にに行ったアンケートでも「あの楽器習ってみたい」という声が沢山出ていました。

演奏会に至るまで

管弦楽団の場合、毎年訪問演奏を依頼していただける学校、養護施設はありません。そのため、責任者は依頼していただけるよう、定期演奏会、合宿などの管弦楽団の行事とかぶらない時期を希望して依頼のための営業を行います。しかし、営業による成果はほとんどなく、OB・OGさんの紹介が主です。多い時で年にのべ3回。少ない時は1件も来ないときがあります。その際は、近隣の常盤台小学校の生徒を国大へ招いて放課後に演奏会を開きます。

もし依頼がくれば、学校との折衝、管弦楽団の練習を経て当日に至ります。ちなみに、練習も本番もプロの指揮者の先生にお頼みしています。

依頼演奏を続けるわけ

依頼演奏をすることによって、管弦楽団が得るものは沢山あります。団としては数少ない収入源で、一方、定期演奏会に向けた技術向上の場ともなります。また、子どもたちの姿勢から、音楽の本質、すなわち「音を楽しむ」事を再認識します。しかし、「依頼演奏によって地域とのつながりが実感できる」というのが一番得るものの中で大きいと思います。日々の練習の成果を発表する定期演奏会の聴衆のほとんどが国大関係者というのが、管弦楽団の悩みです。いろんな人に、特に国大近所の方に聞いてもらいたい。その一環として、依頼演奏会を続けているのです。

これは、大学からの発信の一例です。是非、国大関連のホームページなどをごらんになってはいかがでしょうか。新しい発見があるかもしれません。

知ってるようで、知らない近所では、近所(保土ヶ谷区)で話題になっていることを大学生の視点から取材し、発信していきます。連絡は電子メール(b0254059@ynu.ac.jp)で戸田(とだ)へ。



車座トークではこんなお話をしました。

■できる範囲で無理なくやっています。これが継続できるコツ！

「まち飛びフェスタ」は、52もの企画が一月に亘り実施されるが、実行委員会が全てをやるのではなく、その多くは地元の人達が企画・運営するものであり、個々の企画を運営している人が主体性をもってやっている。実行委員会はそれら企画をマップやカレンダーで紹介する。一軒では何もできないことが、皆でやることでできるようになることが、まち飛びフェスタの参加者にとっての魅力になっている。最近新しいお店の参加も増えている。

■「神楽坂」は、地元の人も外の人も入っていきやすいまち！

・メーリングリストの活用

登録した人が誰でもまちづくり活動に関する自分の意見や、自分の持つ情報を流し、それに対して誰もが意見を気軽に言える環境をつくっている。

活動に毎回参加できなくても、欠席した回の内容を把握でき、活動にいつも自分が参加している意識を皆がもてる。このフォーロのおかげで、次は参加しようという気になる。単なる連絡手段ではなく、コミュニケーションの重要なツールのひとつになっている。

・ボランティア

参加できるときに来られるような環境が継続のコツ。自分の好きなことや得意なこと、やりたいことができる形で、ボランティアの人々が集まり、一緒に行動するのが大事。自分を活かしているのは、楽しく感じる要素。

<個人的感想>

ハード面での取組みやマーケティングなどもこれからの課題だそうですが、これに取組んでいくには、制度上の問題もあるが、住民や地権者の「合意」が重要なので、「まちづくり塾」「路地シンポジウム」「落語、毘沙門寄席」…を通じて、人とのつながりをつくるよう努力しているそうです。このようなイベント、塾、飲み、地元を知ることなど、日頃からのコミュニケーションの積み重ねが、まちづくりを展開していく上で重要だと感じました。

(文責：関)

まち飛びフェスタ(2000~)

神楽坂でお住まいの方、お店を出されている方などが参加し、神楽坂の人々が主役で神楽坂を舞台にしたイベント。



坂でお絵かき

神楽坂まちづくり住まいづくり塾(2000~)

各回毎にまちづくりや住まいづくりに関わるテーマを定めて、しかるべき講師をお招きして実施する。今月で40回目。

路地シンポジウム(2003~)

路地界隈を神楽坂に残していくために、専門家を呼んで、路地の魅力と役割、路地に隠された秘密のエッセンスなどを語り合う。



NEWS! まちづくり工房の後期プロジェクトの5つのカテゴリが決定しました!

メンバーから提出された企画案を元に、企画の目的毎に分類を行い、今年取り組むプロジェクトのカテゴリを5つに絞りました。いよいよ11月からスタートです。

イベント

※まちづくり工房ではイベントそのものを目的とはせず、各プロジェクトの中の活動メニューの手段の一つとします。

フィールドワーク

今年はまず陣ヶ下公園をフィールドに、ワークショップやイベント開催を通じて、公園に愛着を持ち関わる市民を増やしていく取り組みをします。

交流・学習

「まちづくり授業」を糸口にして、地域への関心や愛着を育てる人材や活動メニューづくりを考えます。

まちづくり工房

全体会議とサロン

広報

月1回のプロジェクト活動報告を行い、プロジェクト間の連携方法を調整します。

区民研究

※5つのプロジェクト以外の新たなプロジェクトでも各々で追加人員を募集しながら取り組むことができます。

名物づくり

今年はまず、[ほどがや宿場名物]を手掛かりに普及イベントを仕掛けていきます。随時、保土ヶ谷特産品を素材にした料理等を開発し、普及の輪を広げていきます。

地域のたからもの発掘

まちの伝説、職人などの伝説、地域限定イベントなどの地域資源を取材・発掘して活用の仕方を考えます。

歴史スポットづくり

手始めに、外川神社周辺や境木地蔵前を題材にして、歴史スポットを検討していきます。

品川宿場まつりレポート(辻本さんより)

我が保土ヶ谷まちづくり工房は、2004年9月26日(土)、品川宿まつりで記念すべき初めてのまつり参加を行いました。保土ヶ谷宿ブースは、事前に発掘した保土ヶ谷の名物・名産品を旧東海道の品川橋上(東京都品川区、京浜急行新馬場駅より徒歩10分)で販売。朝から小雨が降り続く天候の中、参加者の熱意で主要品は完売となりました。特に年配者によく売れた傾向があり、今後開催予定の保土ヶ谷宿まつりなどにこの結果を反映したいとの意見で一致し、無事まつり参加を終えました。



- 「ほどがや谷戸汁(やとじる)」純米酒「権太坂」
- 「ごん太餅」清兵衛巻と道中いなるの宿場セット
- 「保土ヶ谷せんべい」の宿場セット
- 「栗山の創作和菓子」の宿場セット
- 「洋菓子ふらんすやま」の「横浜散歩道」保土ヶ谷宿セット